

ソロCDをリリースし、活躍の場を拡げる 教育、海外での活動……好奇心を失わずに

デビューから30年を迎え
新しいフェーズを意識

1981年の日本音楽コンクールで当時最年少の第1位、さらにこの年に新設された増沢賞にも輝き、颯爽と表舞台に登場した渡辺玲子。アメリカで、そして日本で着実な活動を続ける彼女だが、早いもので2013年1月にはデビュー30周年を迎える。

「あまり意識はしていません。でも、もうそんなに経つんですね。日本音楽コンクールが15歳で、その翌年の1月に若い芽のコンサートに出演させていただいた。それがいわゆる正式なデビューでした」

30年の間には身の回りの様々な変化、活動領域の拡大などがあつた。それは実力ある彼女なら当然のことだろう。演奏面では12年の3月と5月に、世界的ダンサーである金森穰が率いるダンス・カンパニー「Noism」との共演を行った。

「これからも自然な流れでやっていきたいと考えています。無理をすると作務的なものになってしまうし。今になってみると若い時よりも余裕が出て、生活全体を見渡しても、以前は見逃していたことにも気付けるようになってきています。それは必ず音楽にも反映されていると思うんですね」と、渡辺。「自分の良いところは、変わらぬ好奇心です。それはずっと持っていたい。ヴァイオリニストは重労働ですが、肉体はケアすればずっと保っていただける場所があると思います。それと少し余裕の出してきた精神的な部分をうまく結び付けて、これからの15年くらいを、またひとつの新しいフェーズに

持っていきたいですね」
Noismとの共演もやってみたら「面白かった」と語る渡辺。まだ演奏してない協奏曲や新曲にもどんどんトライしたいという。現代曲にも興味を持つ。「現在活動している方の書いた作品と関わるというのは、演奏家にとってひとつの大切な使命だと思います」

実験的な大学での講義体験から 得たものを糧に

彼女にとって大きな節目となったのは、04年から秋田の国際教養大学の特任教授に就いたことだ。英語で講義を受け留学が卒業単位に組み込まれているなどユニークな教育で年々注目を集めてきたこの学部で、彼女は秋季の約3か月間、「音楽と演奏」という集中講義を受け持つ。さらに同地では、高校生へのレクチャーコンサートにも力を入れ始めている。

「今の段階で自分を振り返ると、ジュリアードに行くまでが第1フェーズ、アメリカでデビューして演奏活動を一所懸命やっていた時期が第2フェーズでしょう。自分の中で大きく変わった時期があるとすれば、第3フェーズはやはり大学で教え始めたことだと思います。最初は春季だったのですが、本当に練習する時間がないぐらい本を読みましたし、英語での講義も大変で、ほとんど毎日が準備で徹夜でした。そんな状況を2、3年続けていきましたが、今は8年目なので、だいぶ引き出しが多くなり、少し落ち着きましたね。それでもやはり大変なんですけれども(笑)。今は再び演奏を中心に、

これまで色々やってきた経験を自分の中で消化して新しいものにしていきたいと意欲に燃えている第4フェーズですかね」
今年は無伴奏を軸にリサイタルやアルバムを制作。アルバムでは01年に続き「J・S・バッハをはじめ、ヒンデミット、超絶技巧を要するエルンスト、さらに日本の佐藤眞の作品を並べた」。

「2007年に白寿ホールで無伴奏のリサイタルをやった時から録音したいと思ってはいたのですが、まだ自分の中で熟さな部分もあつたので、4年越しの今回となりました。オーケストラやどなたかと共演するというのは、とても刺激になり相乗効果も多いのですけれど、一度、完全に自由になってやってみたくたつたのです。アルバムでは、例えばバッハのバルティータ第3番のように、本当に自分の好きなようにリズムを打ち出すことができましたし、とても私らしいニュアンスで録音できたと思っています。佐藤先生の曲も自分でも音色が気に入っているの、そのあたりも聴いた方に喜んでいただけたら嬉しいですね」

彼女の、室内楽奏者としての活躍も期待したい。12年「東京・春・音楽祭」では、ほぼ同期で組んだメンバーでのドビュッシーの弦楽四重奏曲の切れ味鋭く、並々ならぬ存在感の音を聴かせた。
「室内楽はなるべく機会を見つけてやっていきたいと思っています。12月にはリアホールで矢部さんとのバルトークの《44のデュオ》からいくつか弾きますし、13年のサントリーホール、チェンバールミュージック・ガーデンにも参加します。楽しみにしててください」

渡辺 玲子

Reiko Watanabe

■ヴァイオリニスト



Profile

わたなべ れいこ

1981年第50回日本音楽コンクールにおいて最年少優勝および増沢賞を受賞し、翌年公式デビュー。84、86年にもヴィオッティ、パガニーニの各コンクールで最高位を受けている。ジュリアード音楽大学卒業後はアメリカと日本を中心に第一線で活動している。95年にシノーポリとベルクを録音して以降、アルバムも定期的に発表。2004年には国際教養大学(秋田)の特任教授に就任し、教育活動にも力を入れている。使用楽器は日本音楽財団より貸与された1736年製グアルネリ・デル・ジェス「ムンツ」



SOLO: 渡辺玲子



曲目/イザイ: 無伴奏ヴァイオリンソナタ第6番、ヒンデミット: 無伴奏ヴァイオリンソナタ第1番、J.S.バッハ: 無伴奏ヴァイオリン・バルティータ第3番、佐藤眞: 無伴奏ヴァイオリンのための幻想曲、エルンスト: シューベルトの「魔王」による大奇想曲、多声的練習曲第6番「夏の名残のバラ」
fontec / FOCD9552 2,800円